

平成30年4月1日現在

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表]

機関名	名古屋大学	整理番号	S02
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるものは基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) まつお せいいち 氏名・職名 松尾 清一(名古屋大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) たかはし まさひで 氏名・職名 高橋 雅英(名古屋大学理事・副総長 大学院医学系研究科教授)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) つかむら ひろこ 氏名・職名 東村 博子(名古屋大学副理事 大学院生命農学研究科教授)		
4. 類型	S <複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム	
	英語名称	Women Leaders Program to Promote Well-being in Asia	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(国際開発学)、博士(学術)、博士(教育学)、博士(農学)、博士(看護学)、博士(医療技術学)、博士(リハビリテーション療法学)、博士(医学) 付記する名称:「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム		
7. 主要分科	(① 社会医学) (② 教育学) (③ 社会経済農学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 環境創成学、地域研究、ジェンダー、社会学、看護学、文化学、公共政策		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入 衛生学・公衆衛生、教育社会学、社会・開発農学、環境政策・環境社会システム、地域研究、ジェンダー、疫学・予防医学、地域看護学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	国際開発協力研究科全専攻、教育発達科学研究科全専攻 生命農学研究科全専攻、医学系研究科全専攻、農学国際教育協力研究センター、男女共同参画センター		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	国際協力機構(JICA)、国連児童基金(UNICEF)東京事務所、国連人口基金(UNFPA)東京事務所、フィリピン大学、ルンド大学、カンボジア王立農業大学、公益財団法人 水と緑の惑星保全機構、国際連合地域開発センター(UNCRD)		

14. プログラム担当者の構成 計 56 名					
外国人の人数		5 人	[8.9% %]	女性の人数	
				35 人 [62.5% %]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [80.0 %]					
プログラム実施大学に属する者			45 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			38 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				7 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 ／学位	役割分担 (平成30年度における役割)
(プログラム責任者) 高橋 雅英	タカハシ マサヒコ		理事・副総長・大学院医学系研究科教授	腫瘍病理学/ 博士(医学)	プログラム全体の統括・運営
(プログラムコーディネーター) 束村 博子	ツカムラ ヒロコ		副理事・大学院生命農学研究科教授	家畜繁殖学、 博士(農学)	プログラム実施に関する統括、企画委員会委員長
岡田 亜弥	オカダ アヤ		大学院国際開発研究科・国際開発専攻・教授	地域計画学、 教育・人材開発論、Ph. D.	執行委員会、プログラム運営、国際連携
宇佐見 晃一	ウサミ コウイチ		大学院国際開発研究科・国際開発専攻・教授	農村開発学、 博士(農学)	実践的教育、フィールドワーク
山田 肖子	ヤマダ ショウコ		大学院国際開発研究科・国際開発専攻・教授	比較国際教育 学、アフリカ 研究 Ph. D.	実践的教育、国際連携、インターンシップ
西川 由紀子	ニシカワ ユキコ		大学院国際開発研究科・国際協力専攻・教授	安全保障、平 和構築、博士 (平和学)	実践的教育、フィールドワーク、インターンシップ
服部 美奈	ハツトリ ミナ		大学院教育発達科学研究科・教育学専攻・教授	教育人類学・ 比較教育学、 博士(教育学)	実践的教育、基盤教育
河野 明日香	カノ アスカ		大学院教育発達科学研究科・教育学専攻・准教授	社会教育学、 生涯学習論、 博士(教育学)	実践的教育、フィールドワーク
河野 荘子	カノ ショウコ		大学院教育発達科学研究科・心理発達科学専攻・教授	非行/犯罪心理 学・臨床心理 学、博士 (教育学)	基盤教育
川北 一人	カキキ カズヒト		大学院生命農学研究科・生物機構機能科学専攻・教授	植物病理学、 博士(農学)	プログラム運営、国際連携、実践的教育
大蔵 聡	オウラ サトシ		大学院生命農学研究科・生命技術科学専攻・教授	家畜繁殖学、 博士(農学)	プログラム運営、実践的教育、フィールドワーク
池田 素子	イケダ モトコ		大学院生命農学研究科・生物機構機能科学専攻・教授	昆虫ウイルス 学、博士(農 学)	実践的教育、リーダーシップ教育
中川 弥智子	ナカガワ ミチコ		大学院生命農学研究科・生物圏資源学専攻・准教授	森林生態学・ 熱帯生態学、 博士(理学)	実践的教育、フィールドワーク
犬飼 義明	イヌカイ ヨシアキ		農学国際教育協力研究センター・准教授	植物遺伝育種 学、博士(農 学)	国際連携、実践的教育、評価
榊原 久孝	サカキハラ ヒサタカ		大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	公衆衛生学・ 健康科学、博 士(医学)	執行委員会、プログラム運営、基盤教育
浅野 みどり	アサノ ミドリ		大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	小児看護学、 家族看護学、 博士(看護 学)	執行委員会、プログラム運営、実践的教育
川村 久美子	カムラ クミコ		大学院医学系研究科・医療技術学専攻・准教授	臨床検査学・ 臨床微生物 学、博士(医 学)	国際連携、基盤教育、実践的教育
伊藤 恵美	イトウ エミ		大学院医学系研究科・リハビリテーション療法学専攻・准教授	身体障害の作 業量法学、博 士(心理学)	国際連携、フィールドワーク、インターンシップ
入山 茂美	イリヤマ シゲミ		大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	助産学・母性 看護学、博士 (保健学)	国際連携委員、実践的教育、フィールドワーク
門松 健治	カドマツ ケンジ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	生化学、博士 (医学)	執行委員会、教育研究連携

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 /学位	役割分担 (平成30年度における役割)
寺崎 浩子	テラサキ ヒロコ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	眼科学、博士 (医学)	執行委員会、基盤教育、実践的教育、国際連携
浜島 信之	ハマジマ ノブユキ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	医療行政学、 博士(医学)	基盤教育、実践的教育、国際連携
青山 温子	アヤマ アツコ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	国際保健医療 学・公衆衛生 学、博士(医学)	基盤教育、実践的教育、国際連携、 フィールドワーク
木村 宏	キムラ ヒロシ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・教授	ウイルス学、 博士(医学)	基盤教育、リーダーシップ教育、フ ィールドワーク
榊原 千鶴	サカキハラ チズル		男女共同参画センター・教授	女性教育史、 博士(文学)	執行委員会、プログラム運営、リー ダーシップ教育
下村 吉治	シムムラ ヨシハル		生命農学研究科応用分子生命科学専攻・教授	栄養生化学、 博士(医学)	プログラム運営、実践的教育
竹中 千里	タケナカ チカト		生命農学研究科生物資源学専攻・教授	森林環境化 学、博士(理 学)	プログラム運営、実践的教育、フ ィールドワーク
山内 章	ヤマウチ アキラ		生命農学研究科生物圏資源学専攻・教授	作物学、博士 (農学)	プログラム運営、実践的教育、海 外研修
伊東 早苗	イトウ サナエ		大学院国際開発研究科 国際協力専攻・教授	国際開発論、 博士(開発 学)	実践的教育、プログラム運営
島田 弦	シマダ ヌスル		大学院国際開発研究科 国際協力専攻・教授	開発法学、イ ンドネシア 法、博士(学 術)	基盤教育、実践的教育、国際連携
金井 篤子	カイ アツコ		大学院教育発達科学研究科 精神発達臨床科学 専攻・教授	産業臨床心理 学、博士 (教育心理 学)	国際連携、インターンシップ
山本 英子	ヤマモト エイコ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・准教授	産婦人科腫瘍 学、博士(医 学)	基盤教育、国際連携、海外実地研 修、フィールドワーク
上野山 賀久	ウエノヤマ ケイク		大学院生命農学研究科・生命技術科学専攻・准 教授	生物機能技術 科学、博士 (農学)	海外実地研修、海外研修演習
香川 憲夫	カガワ ノリオ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・ウェル ビーイング特任准教授	生化学、構造 生物化学、博 士(理学)	アドミッションリクルート、企画評 価、管理運営
里中 綾子	サトナカ アヤコ		大学院医学系研究科・ウェルビーイング特任准 教授	理学療法学、 博士(リハビ リテーション 療法学)	カリキュラム、企画評価
砂野 唯	スナノ ユイ		大学院生命農学研究科・生命技術科学専攻・ ウェルビーイング特任助教	生態人類学、 地域研究学、 博士(地域研 究)	海外実地研修、アドミッション・リ クルート
Nicola Stephanie Skoulding	ニコラ ステファニー ス カールドィング		大学院生命農学研究科・生命技術科学専攻・ ウェルビーイング特任助教	タンパク質性 化学、英語 教育、分子細 胞生物学、博 士(理学)	カリキュラム、アドミッションリク ルート、企画・評価
田淵 宗孝	タビチ ムネタカ		大学院教育発達科学研究科・ウェルビーイング 特任講師	社会情報学、 修士(国際 学)	アドミッションリクルート、企画評 価
清成 信一	キヨナリ シンイチ		大学院医学系研究科・総合医学専攻・ウェル ビーイング特任助教	遺伝子資源工 学、博士(農 学)	海外実地研修、カリキュラム
高井 次郎	タカイ ジロウ		大学院教育発達科学研究科・心理発達科学専 攻・教授	社会心理学、 文化心理学、 博士(コミュ ニケーション 学)	国際連携
古川 高子	フルカワ タカコ		大学院医学系研究科・医療技術学専攻・教授	放射線技術 学、博士(薬 学)	国際連携
中西 啓介	ナカニシ ケイスケ		大学院医学系研究科・看護学専攻基礎看護学助 教	臨床看護学、 基礎看護学、 博士(看護 学)	海外実地研修、国際連携、広報
若林 真美	ワカバヤシ マミ		大学院医学系研究科・ウェルビーイング特任助 教	公衆衛生看護 学、博士(医 学)	海外実地研修、フィールドワーク、 インターンシップ

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 /学位	役割分担 (平成30年度における役割)
内海 悠二	ウチノ ユウジ		大学院国際開発研究科・国際開発協力専攻准教授	国際教育開発学、博士(学術)	海外実地研修
古藪 真紀子	コヤブ マキコ		大学院医学系研究科・ウェルビーイング特任助教	国際開発学、修士(国際開発学)	国際連携、海外実地研修
(その他の大学)					
清水 嘉与子	シミズ カヨコ		公益財団法人 水と緑の惑星保全機構・会長、国際看護交流協会理事、日本看護連盟会長、元環境庁長官	看護学、学士(衛生看護学)	リーダーシップ教育
名取 はにわ	ナトリ ハニワ		元内閣府男女共同参画局長	ジェンダー法学、修士(政治学)	実践的教育、リーダーシップ教育、評価
Lourdes N. Pagaran	ロデス パガラン		世界銀行(World Bank) Senior Operations Officer	Development Effectiveness Ph. D.	実践的教育、国際連携、インターンシップ
Araceli O. Balabago	アケリ ハラバゴ		フィリピン大学・看護学科長	看護教育、成人看護、Ph. D.	国際連携
Kajsa Wid e'n	カイ ユイデン		ルンド大学・男女共同参画室・室長	男女共同参画学士(文学)	リーダーシップ教育
横山 和子	ヨコヤマ カズコ		東洋学園大学大学院現代経営研究科・現代経営学部・教授	人的資源管理、グローバル人材育成、博士(経済学)	実践的教育、国際連携
西澤 真理子	ニシザワ マリコ		株式会社リテラシー(Litera Japan Corporation)・代表	リスク政策、リスク・コミュニケーション、Ph. D.	実践的教育、リーダーシップ教育
Pheng Vutha	ハン ブッタ		カンボジア王立農業大学・講師	家畜繁殖学、博士(農学)	国際連携、実践的教育、フィールドワーク
垂井 美枝子	タライ ミエコ		元国連児童基金(UNICEF) 本部人事局次長・国際人事管理コンサルタント	国際人事管理、修士(人事管理学)	国際連携、リーダーシップ教育、キャリア開発支援、評価
高瀬 千賀子	タカセ チカコ		前国際連合地域開発センター(UNCRD) 所長	経済学、修士(経済学)	国際連携、リーダーシップ教育、インターンシップ
戸田 隆夫	トダ タカオ		独立行政法人国際協力機構 人間開発部・部長	国際協力論、人間開発論、博士(国際開発学)	国際連携、実践的教育、インターンシップ

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】本プログラムは、多文化共生に資するウェルビーイング（豊かな生活を実現し権利を保障する）をアジアで実現するために、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーを育成することを目的とする。具体的には、アジアのなかで、ウェルビーイングの実現に密接に関わる食(量的確保と安全)、環境(衛生)、健康(医療、福祉)、社会(脱貧困)、教育(次世代育成)における諸問題を、医学・保健学・農学・国際開発学・教育学の各分野で獲得した高度な専門性を活かし、グローバルな視点で意志決定できる女性リーダーの育成を図る。アジアにおける“ウェルビーイング”の実現には、多様な文化への理解と尊重が不可欠である。一方で、多くのアジア諸国で問題となっている高い乳幼児死亡率(日本の約数十倍)などの共通課題は、食や健康、環境、教育、社会システムの各分野における専門的な「知」を結集し、アジアの文化を理解・尊重できる専門家によって解決すべき課題である。新たな「統合知」を目指す本プログラムは、個別の学問領域では解決しえない課題へのグローバルな視点でのアプローチと課題解決を可能とする人材を育成する。

【組織】国際開発、生命農学、医学(医学科・保健学科)、教育発達科学研究科の4研究科、および男女共同参画センター、農学国際教育協力研究センターからなる研究教育支援のプラットフォームを設置し、国内外の優れた研究者、国際機関・民間企業等でグローバルに活躍する専門家らが担当する教育プログラムと、ロールモデルとなる女性教員・専門家らからなるリーダー育成プログラムを実施する。

【プログラム】女子学生を対象とするが、男女共同参画を支える男子学生にも本プログラムへの参加を認める。学生の成長に応じた M1~D3 の5年間を通じた段階的教育プログラムである。アジア各国連携機関等における「実践的教育」、5年間の徹底した「語学力・発信力強化プログラム」、4研究科合同での副指導教員制、産官学の各関連分野のエキスパートによる「リーダーシップ教育」などにより、高度な研究推進能力に加え、コア能力「企画力・実践力・ジェンダー理解力・俯瞰力・発信力・現場力」の獲得を推進し、グローバル企業・国際開発・協力分野での意思決定を担う女性リーダーを育成する。M1: 自己とアジアにおけるウェルビーイング課題の発見を促し、グローバル視点を養うための基盤教育。留学生との合同合宿(All Night Cross-Cultural Talk; M1~D3 毎年実施)、対象国学生との合同チームによる課題発掘をテーマとした海外でのディスカバリー研修等。M2: 博士課程研究課題設定に向けた基盤教育。研究テーマ設定の為の予備調査・対象地でのネットワーク作りのための海外プラットフォーム研修、ディベート力強化プログラム等。D1: キャリアプランと博士研究課題研究を確実にするための海外フィールド調査(約半年)、リーダーシップ教育、国際機関でのインターンシップ(短期)等。D2: 確実な研究能力・実務能力やリーダーシップ力を磨き、研究成果の学会や論文による発表や将来ビジョンの発信力を強化。D3: 博士論文完成、キャリア形成支援。D2年次でD論文作成を終え、Qualifying Examinationで優秀な成績を収めた学生には、PhD取得後のキャリアパスとなる国際機関等でのインターンシップ(約1年間)を実施。キャリア継続支援: 本籍専攻の教員に加え、1名以上の他研究科教員が学生の指導にあたる。男女共同参画センターが各々の学生に適した女性メンターをコーディネートする。また、D1-D3女子院生が、M1-M2のプログラムに指導的に参加するピアサポートにより、世代を超えた女性リーダーの協力体制を築く。

【評価・質保証】M2からD1への進学時に、本プログラム運営委員会が定めるチームにより、研究課題、語学力習得度、ディベート力、研究成果等を総合評価し、一定の水準に達した学生のみを本プログラムD学生として認める。プログラム修了時(博士学位取得時)に、研究成果、コア能力「企画力・実践力・ジェンダー理解力・俯瞰力・発信力・現場力」獲得状況と研究成果を総合的に判断し、一定の水準に達した学生に本プログラムのディプロマを授与する。

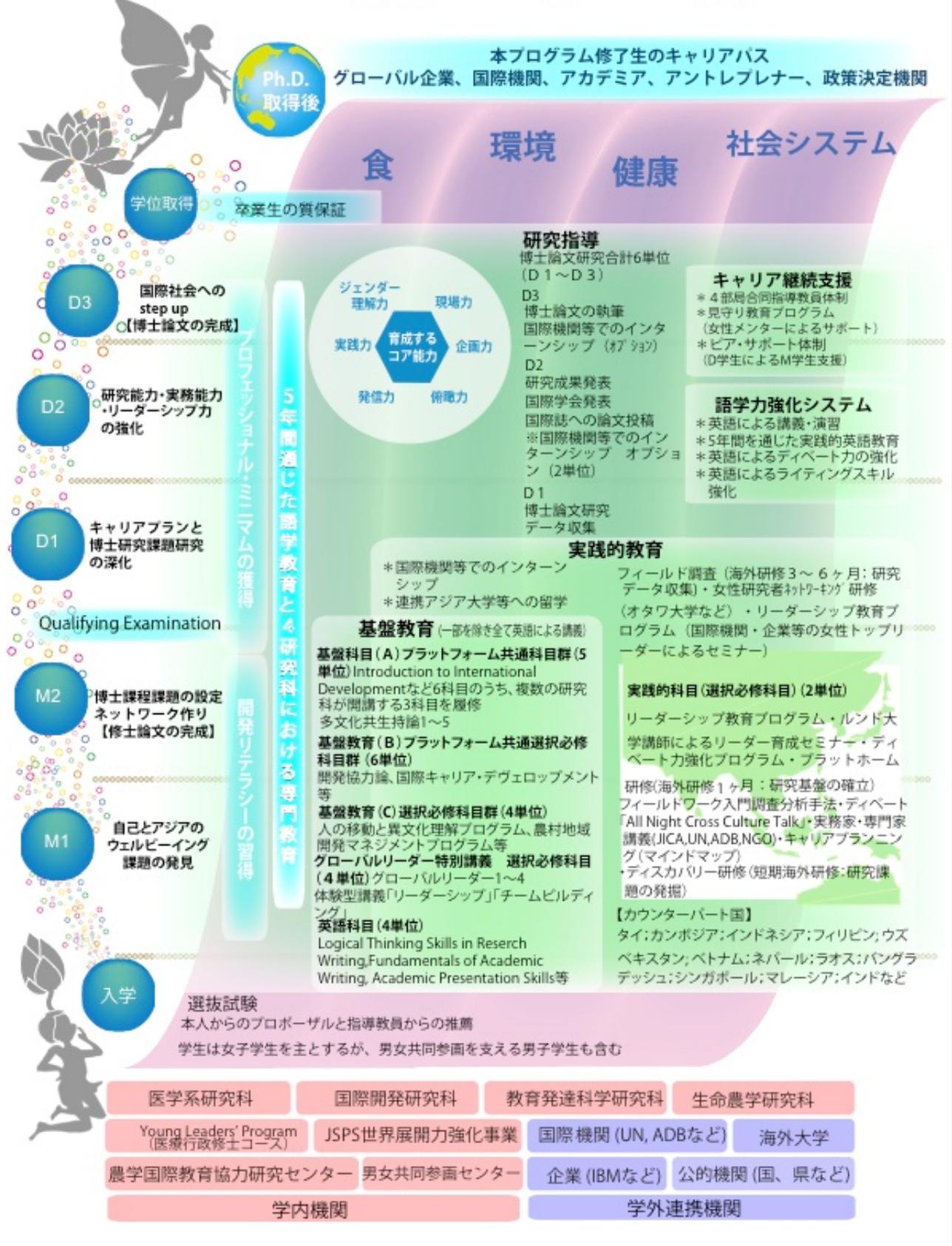
【特色】本プログラムの特色は、高い専門性と国際性と使命感を有する女性リーダーを育成する点である。アジアの多文化共生に資するウェルビーイングの実現のため、食、健康、環境、教育、社会システム分野の「統合知」に立脚する女性リーダーを育成し、未だ潜在力にとどまる女子学生を、グローバルに活躍できるリーダーとして育成する点にある。

【優位性】本学の優位性は、男女共同参画推進および国際協力事業の実績にある。10年以上にわたる全学あげでの男女共同参画推進の取り組みにより、国立大学女性教員実数増1位(2012年現在)、国立基幹7大学中女性教員比率1位の実績をもつ。H27年度には、UN Women主催の“HeForShe IMPACT 10x10x10 initiative”の世界10大学の一つに選ばれた。担当する4研究科は女性教員・女子学生比率も高く、多くのロールモデルと将来リーダーとなる女子学生を擁する。さらに、アジアをはじめ世界各地に多くの提携校を有し、国際機関、NGO、企業とも広いネットワークを築き、国連とのMOU締結を進めるなど、研究協力、インターンシップ等、豊富な国際交流実績を有していることも優位な点である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム



(機関名:名古屋大学 類型(領域):複合領域型(多文化共生社会)プログラム名称:「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム)